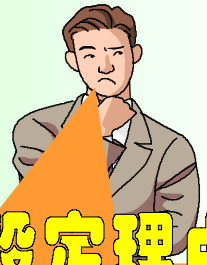
受け手に配慮した情報発信をするための情報モラル指導の工夫
～相手への思いやりを考えさせる場面の設定と教材の活用を通して～

情報教育班　後藤一浩（中学校教諭）



課題設定理由

道徳で情報モラルを扱う上で、
気持ちを深く考えさせる工夫が足りない…
生徒の実態に即した教材が少ない…

手立て

①情報モラルを扱う道徳の授業で積極的にICTを活用しよう。
②生徒たちの日常生活の中で起こりうる場面を設定しよう。
③様々なやりとりの中で、自分がどう関わっていくか自己決定の場を作ろう。
④自分の感情だけを優先した安易な内容の書き込みが受け手（相手）に不快感を与えたり傷つけてたりしてるということを気付く場面を設定しよう。

- 実践１ ブログの影響力
- 実践２ チェーンメールへの返信
- 実践３ KYは大切か
- 実践４ なぜ戦争は起こるのか
- 実践５ コーラス大会でのできごと

成果（変容）

+++生徒+++

●携帯電話の所持率は学年当初に比べ上昇したが、交流サイトや掲示板への参加を控えたり、注意して使用するといった生徒が増え、情報の発信伝達に伴う責任等「違法ではないが不適切な行為」にかかわる指導内容、そして、犯罪に巻き込まれないための知識等「情報安全教育」の指導内容についても副次的な効果としてあがった。

●返信メールを打つ場面で、多くの生徒が相手への配慮をできるようになった。

●学級内での生徒間の対人関係で担任の指導を要する問題が起こらなくなった。

+++教師+++

●情報社会に生きる生徒の実態を踏まえた場面や状況を取り入れた道徳を行うことができた。

●情報教育と道徳教育の関わりについて考えを深めることができた。

担当指導主事　教育情報推進係　小林　努